

第 1 回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

（第 2 回 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会 資料）

平成 2 7 年 1 2 月 1 5 日

第1回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

a 検討委員会の進め方について

公園内の動線や、各沿岸部へ誘導する役割についてなど、**空間デザイン検討委員会、協働体制検討委員会とあわせて検討**していくことが大事。

柴山副委員長

b 基本的な役割・機能について

ミッション(使命・任務)をキチンと議論し、国内外にメッセージすべきではないか。

山口委員

展示施設を利用して**教育や研修の機能を強化**したらどうか。自治体の研修など、学校教育にも使える。そのために専門の**学芸員などを配置**し、震災伝承や情報を本にまとめるなど。

小笠原委員

ここを訪れた方が、自分の身を守るすべを会得できる、危機に対処するイマジネーションを磨くことができるといった**防災・減災ツーリズムのモデル**をつくり、実践する、ということが大事。

山口委員

ほかの施設との機能分担を考えながら、中核となる陸前高田に必要なものを絞っていく。あまり幅広になり過ぎては分かりにくい。県が先んじてスタンスをつくり示していく。

南委員長

ひらく(啓開、未来を拓く、心を開く・・)がキーワードとして良いのでは。

山口委員

中越の経験も踏まえて、この施設が**津波防災に関する「人づくり」「場づくり」「仕組みづくり」の拠点**になって欲しい。それも**世界に情報発信できる冠たる施設**になって欲しい。そのために、**多くの人たちに開かれた施設**であって欲しい。

山口委員

世界の方が関心を持っており、概観的にすべてを見たい方が多いと思う。それに応じたプログラムや運営がいい。

熊谷委員

第1回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

c 展示の内容について

助かった方がどうやって助かったかという観点も重要。	熊谷委員
亡くなった方の証言というのはもう絶対にとれない。このない記憶というものを生き残った皆さんで考え、学習に結びつけられるのではないか。	柴山副委員長
教訓を学ぶことについて、未曾有の災害に対してどのように対応したのか。東北地方整備局の災害対策室を残すことで3.11の危機管理対応を伝承していけるのではないか。	熊谷委員
教訓を学ぶことについて、現場で活躍した自衛隊、消防隊員の他に道を開いた建設業界の人たちの働きを展示してはどうか。「逃げる」と「助ける」の中間部分になるのではないか。	熊谷委員
VTRや各種図書も展示物になる。 東北地方整備局のまとめた震災アーカイブもある。	熊谷委員
3.11だけではなく、陸前高田市の過去の津波の経緯や記録も紹介したらどうか。	赤沼委員
姉石地区の津波記念碑のような過去の事例も紹介し、この三陸一帯の津波の経験とそれを乗り越えてきた英知を紹介していく必要がある。	赤沼委員
展示の中に、地域に誘導し町の変化を見てもらえるような工夫があるといい。	熊谷委員

第1回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

d 展示の可変性について

展示では、 持続性だけでなく、発展性まで 考えていかないといけない。発展性を持たせながら学習に生かすことが大事。	柴山副委員長
展示情報や構成は、 一定のスパンで新しい情報を取り入れながら可変 させたほうがよい。そのためには 調査研究機能を具備 する必要がある。	赤沼委員
(中越では) IT技術を活用 すると、情報発信は少ないコストで大きな効果と確かな成果を出すことができることも身を持って体験した。地元の大学・高専と研究所の力を借りて、 情報更新・蓄積 している。	山口委員
地域にすぐ誘導 できるような リアルタイムの情報 があったほうがよい。そのため メディアの情報も 中に入れていったほうがよい。	柴山副委員長

e 震災遺構について

教訓を学ぶことについて、 震災遺構などの実物を見ることは、強く印象に残る。	熊谷委員
ベルコンなど、 復興の途中で生まれて、消えていくものも可能な限り残し、見せていきたい。	柴山副委員長

第1回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

f 三陸沿岸各地との連携について

本施設が突出しすぎない方がよい。各市町村の津波関連施設や震災遺構、メモリアル施設等のテーマで各論展開を お願いし、 緊密な連携体制 をとることが大事。	赤沼委員
各市町村では地域の重要な特徴をあらわすことでエリア内全体に自然に人が回る環境ができるのではないか。	赤沼委員
ジオパークや自然公園、鉄道など各市町村の復興計画のなかで、この 伝承施設の連携も一つのつながり となるのではないか。	南委員長
三陸海岸エリアを「 震災津波街道 」と位置付けて協議会等を設置し、その中で 情報共有・情報発信する仕組み を考える。	山口委員
防災教育については、三陸沿岸にできる総ての施設で行われてしかるべき。ただ、防災学習・防災教育に関する 基本的な資料やデータは、一箇所で収集・蓄積し、ネットワーク上で共有 するのがよい。	山口委員
間一髪を逃れた体験を集めて形に残し、情報を伝えることで、地域を回るきっかけになる。そのために 調査機能を本施設に備えてほしい 。	小笠原委員

g 中心市街地との連携について

中心市街地へと足を運んでもらうことも大事。本施設は危険区域に設置されるため、 自然史標本や文化財などの実物資料の展示は難しい 。市博との棲み分けができる。	赤沼委員
--	------

h 運営について

展示施設の考え方、展示内容・構成等については、 運営主体となる組織や関係者の皆さんの意向・意見が凄く大事 になってくる。	山口委員
---	------